

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2単位)	3. 科目番号	SCMP2302						
2. 授業担当教員	青木 正		SBMP2302						
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>								
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>「学外調査として、休校期間中に、自分が居住する地域 (市区町村) の『子ども家庭』に関する問題や課題について調査し、分かったこと、理解したこと、発見したこと等を報告書にまとめる。」</p> <p>※レポートのタイトルは、自分で考えて表紙に記載すること。 ※レポートは、A4サイズ横書きで3枚とする。 ※調査方法としては、可能な限り学校などの教育機関、児童館などの児童福祉施設、市 (区) 役所や町 (村) 役場、保健センターなどの機関訪問をする。又は、民生委員・児童委員など地域の「子ども家庭事情」に詳しい方から「子ども家庭」に関する話を聴くことが望ましい。子ども家庭福祉に関連する施策に関するチラシやパンフレットなども頂き、レポートに添付することが望ましい。 ※提出は、休校期間明けの最初の授業時とする。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』第7版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉の全体像を、講義やグループ討議、レポート作成を通して理解し、説明ができるようになる。 2. グループ活動を通じて、思考力を高め、問題発見・問題解決力などの能力を培う。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%	2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%	3 課題レポート	総合点の40%
1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%								
2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%								
3 課題レポート	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目は、社会福祉士国家試験の出題科目であり、履修は受験資格取得において必須条件となっています。また、資格取得を目指していない学生にとっても、社会福祉における中軸の一つをなす科目ですので、真摯な気持ちで受講して下さい。また学習内容は、私達の日常生活、地域生活に直結しており、社会福祉を学ぶ者にとっての一般常識的な内容も含まれています。一方で、専門的な固有性をもった内容も含まれているため、積極的な授業への参加が求められます。全出席が基本ですので、体調管理に気を付けて授業に臨んで下さい。</p>								
13. オフィスアワー	授業中に通知します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	ガイダンス：授業の概要と進めかた 子どもの権利と人権：今、世界で子どもに何が起きているのか	事前学習	シラバスを熟読しておく。						
		事後学習	「子育て」と「育ち」に対するイメージを言語化し、書き出す。						
第2回	子どもの歴史①：世界史にみる子どもの生活状況 (虐殺・虐待・誘拐等)	事前学習	「人身売買」「子ども兵士」「代理出産」という言葉について調べておく。						
		事後学習	「子どもの権利条約」を確認し、現代社会における国や地域での子どもの置かれた立場の違いをまとめておく。						

第3回	子どもの権利と人権：今、世界で子どもに何が起きているのか	事前学習	「エリザベス救貧法」「ワークハウス」「子どもの誕生」「ナチ・ホロコースト」「人身売買」「子ども兵士」等を調べる。
		事後学習	「子ども」「青少年」「成人」の定義、世界史に見る子どもが置かれた状況を考察する。
第4回	子どもの歴史②：日本史にみる子どもの生活状況 古代、中世までの日本	事前学習	日本の古代、中世の子どもの生活を調べてみよう 昔話の中の子ども等を自分で調べておく。
		事後学習	日本の近世以前の子どもの生活の様子を考察し、整理する。
第5回	子どもの歴史③：日本史にみる子どもの生活状況 近代以降の子どもの置かれた社会的状況	事前学習	明治以降の日本の子どもの生活を調べてみよう
		事後学習	昭和時代までの子どもの歴史を考察し、整理する。
第6回	現代社会と子ども・家庭：現代社会と子ども・家庭、子どもの育ち、子育てのニーズ	事前学習	現代の子どもの生活の特徴をチェックする。
		事後学習	現代までの子どもの置かれた歴史をまとめ、考察する
第7回	子ども福祉関連法・制度①	事前学習	社会福祉小六法で児童福祉法の概要を読み、児童相談所に関連する資料を検索しておく
		事後学習	「子どもの貧困」に関する資料を集めて読んでおく
第8回	子ども福祉関連法・制度②：児童虐待防止法の変遷と課題	事前学習	児童虐待について調べてみる
		事後学習	児童虐待防止法と児童福祉法の関連をまとめる
第9回	子ども家庭にかかわる福祉・保健①：子どもの貧困の防止、ひとり親家庭の福祉	事前学習	子どもの貧困の防止、ひとり親家庭の福祉を読んで、項目を理解しておく
		事後学習	子どもの貧困の防止、ひとり親家庭の福祉についてまとめる
第10回	子ども家庭にかかわる福祉・保健②：保育、地域子育て支援	事前学習	保育、地域子育て支援を読んで、項目を理解しておく
		事後学習	保育、地域子育て支援についてまとめる
第11回	子ども家庭にかかわる福祉・保健③：障害・難病のある子どもと家族、非行児童・情緒障害児への支援	事前学習	障害・難病のある子どもと家族、非行児童・情緒障害児への支援を読んで、項目を理解しておく
		事後学習	障害・難病のある子どもと家族、非行児童・情緒障害児への支援についてまとめる
第12回	子ども家庭にかかわる福祉・保健④：児童虐待対策、子どもと家庭にかかわる女性福祉	事前学習	児童虐待対策、子どもと家庭にかかわる女性福祉を読んで、項目を理解しておく
		事後学習	児童虐待対策、子どもと家庭にかかわる女性福祉についてまとめる
第13回	援助活動の実際①：子ども家庭福祉相談援助活動	事前学習	就学前の子どもの養育制度の概要を調べておく
		事後学習	就学前の子どもの養育困難の支援と効果をまとめる
第14回	援助活動の実際②：施設ケアと子ども家庭福祉援助活動、地域援助活動とネットワーク	事前学習	社会的養護について事前に自分で概要を調べておく
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスを整理する
第15回	まとめ	事前学習	全授業を通してのキーワードの確認と不明点の整理
		事後学習	全15回を振り返り、学習目標が達成できたかどうかを確認する